

「いのちを守るために」

三豊市立桑山小学校 3年 森 虎治郎 さん

ぼくの住んでいる家の後ろには、すぐ山があります。春になると花がさいてぱっと明るい山になり、夏になると緑がこくなり気持ちよい空気を運んでくれます。秋には、赤や黄色のいろいろな色にそまってきれいです。冬は葉っぱもちってとってもさびしそうです。ぼくは、いろいろに変化する山を毎日見るのが、とても楽しみでした。

でも、三年生の夏休み、大きな台風がぼくのところにもせっきんしてきました。テレビから、「土しゃさいがいや、川のぞう水、はんらんにけいかいしてください。」という言葉は何回も聞きました。ぼくのお母さんも、「家の後ろの山がくずれたら、たいへんなことになる。」

と、とても不安そうでした。ぼくは、毎日見ている山がくずれたりするのかととてもびっくりして、こわくなりました。ぼくは、どうしたらいいのか分からなくなりました。土しゃさいがいなんて、ぼくにはちっともかんけいなものだと思っていたのです。

お母さんから、ぼくの住んでいるところのハザードマップをはじめて見せてもらいました。きけんを表す黄色のわくの中にぼくの家はすっぽりと入っていました。自分たちの命を守るために、ぼくはじっとしてはいけなと思いました。ひなんの合図がでたら、すぐにできるようにじゅんびをしなければいけません。ぼくは、台風のじょうほうをテレビでずっと見ていました。今回の台風は、雨と風がすごくこわかったけれど、何とかすぎさっていつてくれました。ぼくはものすごくほっとしました。

毎日見ている大すきな山が、きけんを運んでくるかもしれない山だということがよく分かったし、また、やって来るさいがいにそなえて、ぼくはもっともっと山のことを知りたいと思いました。それに、すぐひなんできるように家ぞくで話し合って、いっしょにじゅんびすることがとても大切だと思いました。自分たちの命は、自分たちで守るようにしたいです。